香川県教育施策推進協議会（第５回会議）における主な意見

１　開催時期、開催方法

令和８年 10 月に書面開催

２　議題

新しい香川県教育基本計画の素案（案）について

３　主な意見等

【第２章　基本理念、基本方針、施策体系】

○　基本方針

１　香川で育ったことを礎に、発展的な社会の創り手となれる力の育成

・「創り手となる力の育成」ではなく、あえて「創り手となれる力の育成」とした経緯を教えていただきたい。現在の小・中学校、高等学校、特別支援学校の学習指導要領では、前文等に「持続可能な社会の創り手となる」と記載されている。これは、子どもたちが社会の変化に受け身で対応する人ではなく、自ら社会に参画し変革していく人として育てたいというメッセージが込められている。

「なれる力」と表現すると、“なれるかも…”という可能性にとどまる印象を与えないだろうか。創り手となるための能力等は身に付けたけれど、実際に当事者意識を持ち、社会に参画するかどうかは本人次第という、一歩引いた印象を受ける。

本県として教育のゴールを示すのであれば、実際に社会を創っていく子どもの姿を見据えた「創り手となる」の方が、力強く響くと思う。

また、「発展的な社会の創り手」というスケールの大きな目標に対して、可能性（なれる）よりも、意志＋実践（なる）をつなげた方が、「これからの時代を生き抜くために必要な資質・能力を確実に育成することが必要である。」という計画策定の趣旨で述べた決意が伝わるのではないだろうか。

２　互いを尊重し、予測困難な社会の中でも、自分らしく、挑み続ける力の育成

・(説明文について)「変化を前向きに受け止め」は「変化を柔軟に受け止め」の方がよいのではないか。

○　施策体系

・「郷土に誇りを持つ教育の推進」は、画一化する社会において郷土を思う気持ちを育む香川県独自の教育の場になるとともに、子ども達には記憶に残る授業になると思う。各分野において郷土を深堀りできる創意工夫を凝らした授業内容を望む。子ども達が自らの意思で香川県の発展を望み、役立つ人材になりたいと思うとともに、自分から郷土のために考えて行動できるような教育になることを期待している。

・社会に参画する力の育成、キャリア教育の推進によって、子ども達が自ら考え、困難なことにも進んで立ち向かい解決する力を蓄え、さらに世界に通用するグローバル力を身に付ける教育の機会となり、変化の目まぐるしい次世代でも自分の能力を信じて活躍できる人材が育つことを願う。

・「豊かな心の育成」に「道徳教育の充実」が追加されたことは、学校での心の教育の一つとして分かりやすいと思った。

・加速する若年層の生成ＡＩやインターネット利用に対して、教育において情報モラルとメディアリテラシーの育成を早期段階で徹底してほしいとともに、収集した情報を鵜呑みにせず自分で考え答えを導き出す思考力と、バーチャルではなく実体験や五感に基づく判断力が身につく教育を望む。

・「スポーツによる地域活性化」という項目の追加は、よい（ありがたい）と思う。世代間交流など、社会性の面でも有効。また、スポーツ嫌い、体育嫌いの子どもたちをなくして、スポーツ・体育・身体活動の楽しさを醸成できるようにできたらと思う。

【第３章　施策の推進】

○キャリア教育の推進（３）就職指導の充実

・「させる」という表現が５回出てくるのが気になる。生徒を主語にして「生徒が…」という文に構成し直してはどうか。

○人権・同和教育の推進ほか

・「問題行動」「課題のある子ども」という表現は、バイアスを持った見方と考えられるように思う。「適応に困難を感じている子ども」等、子どもの立場からの言葉に言い換えられないか。

○不登校児童生徒への支援（１）不登校、高校中退対策の充実

・高校中退対策の中に「転編入の緩和」を追加してはどうか。私立高校では、優秀な人材が軽微な過ちで退学を余儀なくされている。転校するとなれば、一部の私立高校や通信制しか選べない状況を変えることにより、公立高校で学び、郷土に貢献する人材を育てることができると思う。

○体力づくりの推進（２）スポーツ活動の充実

・子どもを預かるにあたっての注意喚起のため、指導者に研修などを必ず行って欲しい。教員は子どもの成長に寄り添うプロである。これまで学校が行ってきた部活動と同等の安全安心な活動を担保できなければ生徒にとって危険な活動になってしまう。ゆるやかにネットを張るようなマニュアルを県で作成するのはどうか。

・他の地域への参考として、高松市での実施、特に教員の副業とするときの立場や報酬について具体的に紹介するのはどうか。ある程度県が好ましいと思う「スタイル」を形として発信すれば助かる現場が多いと思う。

【資料　数値目標一覧】

・全体を通して、「－」はデータが存在しないのか、未記入なのか、０なのか分かりにくい。

・指標 21　スクールカウンセラー配置時間の割合
指標 22　スクールソーシャルワーカー配置時間の割合
→いずれも「～配置時間の割合」とあるが、何に対する割合か分かりづらい。

・指標 38　週１回以上読み聞かせを行っている保護者の割合
→「保護者の割合」とあるが、保護者の範囲が幼児の保護者か小学生の保護者を含むのかが分かりにくい。

【その他】

・10 月 26 日に高校生と意見交換を行う場があり、高校生が様々な分野に興味を持ち、積極的に探究活動を行っていて、素晴らしいと感じた。そのような学生が活躍できる機会が一層増える事に期待している。

・今回の教育施策への課題や趣旨など大切な文言が繰り返し現れているので、利用する方は理解しやすいと思う。

・少子化（人口定着化）政策に関する内容、ＡＩやスマホ・ゲームなど子どもたちの身の回りにある好奇心溢れる環境や保護者の子育て環境からも難しい状況下での対策を案ずる時、目標に記されているように、「夢をもち、自分の目当てに向かって、取捨選択しながら頑張る子ども（人）に育っていく」ために、家族として、地域の社会活動を行う一人として、小学校・中学校学校運営協議会の一員としての在り方を考える。せめて、子どもたちが自分に自信を持ち、豊浜・香川を愛し誇りをもって育っていけるように、見守り、時々立ち止まって、考えていきたいと思っている。

・高松・香川県はとても魅力的な地域だと感じている。高松はアリーナや商店街に賑わいがあり、県内は自然豊かで、国内・世界に誇れる企業もある。ただ、地元の方にそういう話をすると、「そうですか？」「田舎ですよ」とやや反応が薄く、地域の良さ・強みに気づいていないのでは、と思う。「謙遜」なのかもしれないが、とても「もったいない」。
まずは、大人たち一人ひとりが地域に愛着と誇りを持ち、日頃から自信を持って地域をアピールすることが大事だと思う。そういう大人たちの発言や行動に触れる中で、子どもたちも地域への理解と愛着を深め、地域を支える人材として活躍する、という意識を育てることができるのではないか。